

ファッション 海外初出店のパリ店順調 日本の技術と商品が話題に

技術と商品が、パリでも話題を集めている。



施術を行う宇田代表(左)

「トータ
ルビューテ
ィーサロン
ファッション
ール」(福
山市松浜町
三二一四
二、宇田ユ
ミ代表)は
5月10日、
「フアショ
ール パリ
店」をパリ
市内(サン
・ジェルマ
ン・デ・プ
レ通り)に
オープンし
た。長年福
山で培った



パリのオープニングイベント

パリ店はワンダーランド店(福山市松浜町)、ニューキヤッスルホテル店(同市三之丸町)、ラプデイー店(同市春日町)、神戸店(神戸市)に続く五店舗目で、海外への出店は今回が初めて。店舗面積は約五〇平方メートルで、指圧や整体を取り入れたエステと、オリジナルコスメの販売を行っている。

フランスは美容大国でありながら、日焼けなどを「予防する」という意識が低く、日本人に比べてシワも多いという。「骨格や肌質も日本人と違うので、施術方法はフランス人向けにアレンジしています。施術後、パリのマダムに『トレビアン』とか『マジック』と言ってもらえて、とても感激しました」と宇田代表。

山陽染工がCFで販売

段落ち抜染シューズ 「メイドインビンゴ」にこだわり



店内には備後エリアのものづくり企業の商品も展示し、PRに協力している。「素晴らしい伝統工芸を守っている方がたくさんいるので、パリで紹介して、少しでも福山の皆さんのお役に立ちたいと思います」。商品は備後畳、備後緋、桐小物、豆菓子など。

「パリ出店には不安もありましたが、シビアナフランスのマダムに日本の技術と商品認められ、ほっとしました。これからも福山というブランドを発信し、日本文化をフランス人にアピールしたい」と意気込む。



ベッド飾りに備後緋を使用

染色整理業の山陽染工(株)(福山市一文字町六一、松本社一郎社長)は、備後福山の地域資源のデニムに色を抜いて柄を施す独自の技術「段落ち抜染」加工をした生地を使った抜染スニーカーを写真上とスリッポンを写真下を開発した。



「シューズの販路は持たないので、CFを活用した」と同社。「地元企業と共にものづくりをする楽しさを感じている。地域活性化にも役立てば」としている。

アンディング(CF)サイト「マクケア」で7月30日まで購入者を募集している。販売を通じて「メイドインビンゴ」を発信するとともに、独自技術の「抜染」をアピールする。シューズの柄は夏向けのカラーで、スリッポンは「海辺で素足で履くイメージ」という。長く履いているうちに経年変化で色落ちし、履き込んだジーンズのような味わいも楽しめる。CFでは三〇〇足を募集し、定価の20%オフの一万五〇〇円(税込)で購入できる。